

2015年5月22日
SMBC日興証券株式会社

SMBC日興証券、投資初心者向けコンテンツを大幅拡充

SMBC日興証券株式会社は、本日より、当社ホームページの投資初心者向けコンテンツ『はじめての株式投資』を大幅に拡充いたしましたのでお知らせします。

金融庁が本年3月に実施した「NISA口座の開設・利用状況調査」では、NISA(少額投資非課税制度)の2014年1月末から同年12月末までの年代別口座数の伸び率で、20~40歳代が高く、資産形成層の投資家が増えてきております。

また、当社においては、主にインターネットで取引するダイレクトコース[※]で本年3月から4月に口座開設をされたお客様のうち62%が投資未経験と回答されています。

このように、資産形成層や投資初心者層の証券市場への参加が増加している中、当社は、ホームページの投資初心者向けコンテンツである『はじめての株式投資』の内容を大幅に拡充し、「株式の基礎」「チャートや指標を活用した銘柄選び」「取引方法」などご理解いただきやすい画面に刷新いたしました。

また、投資経験者向けコンテンツである「一歩進んだ株式投資」を追加いたしました。

(詳しくはこちら→<http://www.smbcnikko.co.jp/lecture/stock/index.html>)

なお、当社では、本年3月に株式取引に便利な「SMBC日興証券アプリ」の提供を開始し、4月より「ダイレクトコース」における現物株式委託手数料を大幅に引き下げ、約定金額帯ごとに定額にするなどシンプルでわかりやすい体系にしております。

これからも当社は、投資初心者層を含む幅広い投資家の皆様へ向けて、ニーズに即したサービスやコンテンツを提供してまいります。

※ 「ダイレクトコース」は、パソコンやスマートフォンを使ってご自分のペースでお取引できるコースで、担当者からのアドバイスや投資情報の提供を受けてお取引する「総合コース」とは異なります。

(詳しくは <http://www.smbcnikko.co.jp/service/course/direct/> をご覧ください。)

『はじめての株式投資』画面イメージ

はじめての株式投資

リスクもあるものの、ハイリターンが期待できるのも魅力！基礎から実践までわかりやすく解説します。

1.株式の基礎

- 株式投資とは？二株式のイロハ
- どれくらいの金額から買えるの？
- 株式投資の魅力を知っておきたいこと

2.株価の動きをチェック

- 株価はどうやって見たらいい？
- 新聞やニュースでよく聞く株価指数って？
- 金利や為替と株価の関係

3.銘柄選びはどうしたらいい？

- 投資先はどうやって決めたらいい？
- 株価の水準は？～割高？割安？～
- 株価チャートの見方

4.お取引の流れ

- どうやって注文したらいい？
- 手数料や税金はどれくらいかかる？

一歩進んだ株式投資

- テクニカルチャート活用術
- LO-PI戦略
- トレーディングツールを活用

こんな取引方法も

- キックアップ(金額・株数指定取引)とは？
- 株式ミニ投資とは？
- 新規公開株式(PO) / 公募・売出し(PO)とは？
- 信用取引とは？

株ってどういう単位で買えるの？～単元株～

証券取引所では、上場会社が定款で定めた1単元の株式の株を最低売買単位として、その数値の株数で取引が行われています。

上場会社の多くは、100株もしくは1,000株を1単元としています。1単元の株を定めず、1株で取引されている会社もあります。
※ 全国証券取引所では、売買単位の集約を整備すべき課題の一つとし、上場する国内会社の普通株式の売買単位を100株へ統一することを最終的な目標としています。



ワンポイント!

単元株が100株だったら、市場に60株とか75株といった数量の発注はできません。注文の前に、発注数量が単元数の整数倍になっているかを確認しましょう。直近の株価が600円で100株単位の株数を買おうと思ったら、最低でも600円×100株=6万円に加えて、手数料(税込)が必要になります。

▲ページの先頭へ

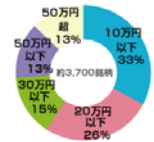
どれくらいの金額から買えるの？～意外とお手軽～

東京証券取引所に上場している銘柄の取引金額

投資は10万円からとか、大きなお金がないと取引できないと思っている方も多くいらっしゃるかと思いますが、大きなお金ではなくても取引できます。

東京証券取引所に上場している銘柄は約3,700銘柄。そのうち、10万円以下で購入できる銘柄は約1,200銘柄(全体の約33%)、20万円以下であれば、なんと約2,200銘柄(全体の約60%)もあります。

※ 2016年4月現在/SMBC日興証券調べ



株価チャートとは？

チャートとは1日、1週間、1ヶ月といった期間の株価をグラフで見やすくしたものです。ただ、株価を見ただけでは、安いのか、高いかを判断できません。そんなときに参考として用いられます。また、相場トレンドや過熱状態等を捉えるために活用することもできます。

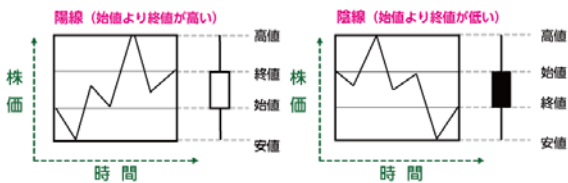


▲ページの先頭へ

株価チャートの基本～ローソク足～

ローソク足とは

始値、高値、安値、終値といった株価の動向を示す4本の値段を1本の棒で表しているものです。形がローソクに似ているためこのように呼ばれています。目先の相場展開を予想したり、相場の強弱を見るものとして使われています。ローソク足はチャート(値動きのグラフ)を書く場合に用いられ、相場の方向性(トレンド)を視覚的に読み取ることができます。



騰落レシオから見る相場観

騰落レシオは値上がり銘柄数と値下がり銘柄数の比率から、市場の過熱度合いを見る指標です。

$$\text{騰落レシオ}(\%) = \frac{\text{一定期間の「値上り銘柄数の合計」}}{\text{「値下がり銘柄数の合計」}} \times 100$$

相場が上昇している局面では、値上がり銘柄数が値下がり銘柄数よりも多くなることがあります。

ほとんどの銘柄が上昇するようだと、過熱感が台無し。その後短期的に調整局面を迎える可能性があります。逆に相場が下落している局面では、値下がり銘柄数が値上がり銘柄数よりも多くなることがあります。ほとんどの銘柄が下落するようだと、割安感が台無し。その後短期的な反発局面を迎える可能性があります。

騰落レシオが100%超の場合、値上がり銘柄数が値下がり銘柄数よりも多くなることを示し、100%未満の場合、値上がり銘柄数よりも値下がり銘柄数が多いことを示します。

一般的には騰落レシオが120%以上は相場の高値圏、70%以下は安値圏といわれています。(高値圏、安値圏の判断は絶対ではありません。)

(例) 日経平均と騰落レシオ



(出所: QUICK)



ワンポイント!

騰落レシオはあくまで過熱感を判断する目安であり、騰落レシオだけで判断するのではなく様々な観点から判断することが大切です。

以上